

書のあゆみ

—BC200年までの書のたび—
篆書とその歴史



BC
200年までの書のたび

書のあゆみ

— 篆書とその歴史 —

編者 荒金大琳

目次

はじめに	2
中国歴史年表総表	2
神話・伝説の時代から現存する時代へ	4
〈符号的の文字〉	4
夏時代から商時代へ	8
商時代の文字	10
十干十二支(甲骨文・金文と隋唐の楷書との比較)	12
甲骨と甲骨文字の鑑賞	16
甲骨文字の造型と現存の文字	22
殷の文字について	34
周の時代の文字(商代晩期から西周)	37
金文について	40
東周春秋時代の金文	53
東周戦国時代の金文	85
竹簡(楚簡)の鑑賞	106
石鼓文	109
秦の統一文字	113
泰山刻石の鑑賞	119
瓦当の鑑賞	129
追記	139
書作家が書いた篆書の臨書と創作	147
篆書に関する指導記録	174

はじめに

別府大学教授

荒金大琳

こんにちは大琳です。
 書は単に筆を持って紙に書くだけで楽しいものです。
 その点や線が構成され形になると、文字となり意味が生じます。
 その文字も1000年、2000年経つとそれぞれ形を変えます。
 その文字は自然の力で選びぬかれて書の古典となります。
 書の古典は書の学習にとって重大なものとなります。
 書の歴史も雄大です。
 少しでもこの古典を理解することが出来ると、書がいま以上に楽しくなります。
 人が生きていたこと。悩み、笑い、苦しみ、怒り、夢見たことを感じます。
 書かずとも見ているだけで、時には一緒にほほ笑み、一緒に涙を流すこともあるでしょう。
 時には甲骨の中にも自分を見出す事があります。
 木簡や石碑の中にも…。
 古典を見て書くことを臨書すると言います。
 臨書する時は自分の真正面に拓本をおいてよく見て、そして左におき直して書きましょう。
 時には石碑が建っている所にも旅をしましょう。
 昔の人が歩いた道を歩くことによって、昔の人の心も理解できるかもしれません。
 この本はひとつの足掛かりです。
 好きな古典に出会ったら迷わずその拓本の全体を臨書してみましよう。
 そして、学んだことは忘れることです。これが大切なことです。
 そして、再び筆を持って紙に書き、楽しんでみましよう。
 それでは現代までの書の旅を、何年かかるかわかりませんがご案内いたします。
 まず篆書についてです。

表紙 爵

裏表紙 甲骨文字

半坡遺跡発掘の水をくむ壺



(青銅器の爵 これでお酒を飲みました)



「旦」の文字は、この風景から生まれたのだろうか？



P169
を参照

中国歴史年表総表

		年代	石器時代の分類	文化分類	社会系体
更新世	初期	約170万年前	旧石器時代 (一六九万年間あまり)	芮城西侯度 (山西省) (約180万年前)	原始群居時代
		約100万年前		元謀猿人文化 (雲南省) (約170万年前)	
	中期			藍田原人文化 (80万年前～60万年前) 北京原人文化 (60万年前～20万年前) (周口店) 金牛山文化 (北京大学発掘) 約30万年前	
	晩期	約10万年前 約3万年前 約1万年前		馬霸人 (20万年前～10万年前) 長陽人 (") 丁村文化 (") 許家窑人 大荔人	
				約3万年前	〈氏族社会〉
		8000年前	中石器時代	柳江人文化 山頂洞文化 (周口店) 薩拉烏蘇文化 小南海文化 峙峪文化 資陽人	母系氏族社会
全新世		BC6000年	青蓮崗文化 (BC5400年～BC3000年)		
	約6000年前	新石器時代 ★	仰韶文化 (半坡文化) (A) (BC5000年～BC3000年)		
	約4100年前 約4000年前		大汶口文化 (B) (BC5400年～BC2500年)		
			良渚文化 (BC3300年～BC2200年) 龍山文化 (BC2900年～BC1900年)		
			(C)夏 (BC2205年～BC1783年) (D)商 (BC1783年～BC1122年)	二里头文化	父系氏族社会 両系氏族社会へ
		2000年前			

は4頁・5頁・6頁、(B)は6頁、(C)は8～10頁、(D)は10頁・34頁を参照して下さい。

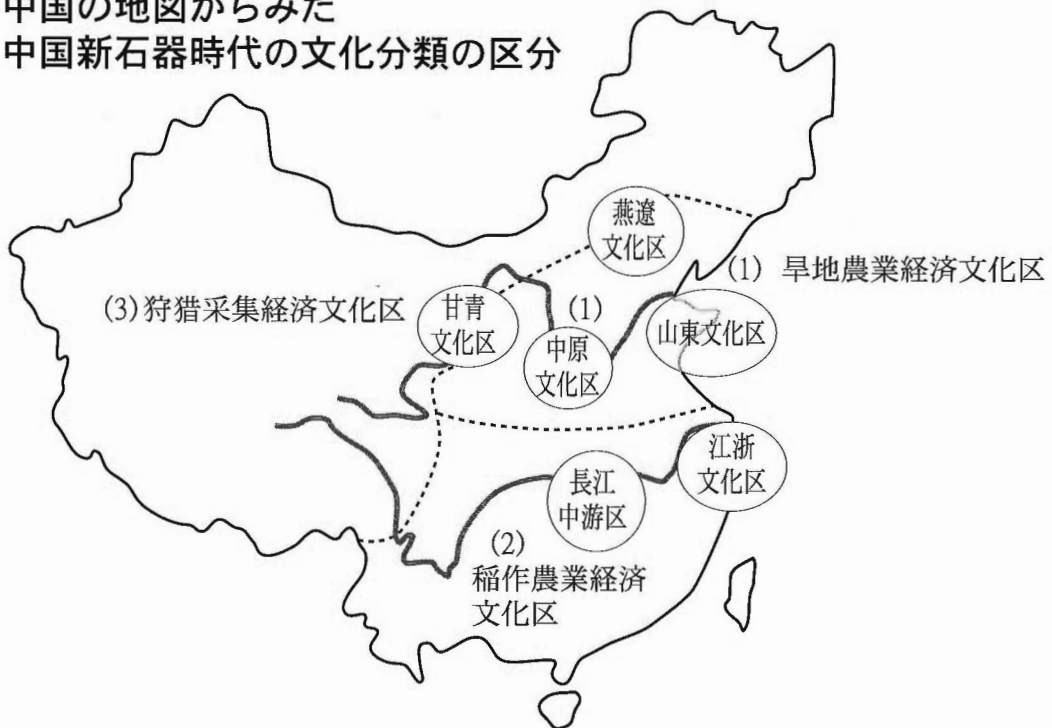
頁へ) (6頁へ)

★ 中国新石器時代の文化分類の系譜

年代	文化分期	(1) 旱地農業経済文化区				(2) 稲作農業経済文化区					(3) 狩猎采集経済文化区							
		甘青文化区	中原文化区	山東文化区	燕遼文化区	江浙文化区	長江中游区	閩台区	粵桂区	雲区	東北区	蒙新区	青 藏					
9000年前	新石器早期																	
8000年前																		
7000年前																		
6000年前	新石器晚期																	
5000年前																		
4000年前	銅石併用時期																	

〈二里头文化〉
 (C) 夏 (BC2205年～BC1783年)
 (D) 商 (BC1783年～BC1122年)

中国の地図からみた 中国新石器時代の文化分類の区分



神話・伝説の時代から現存する時代へ

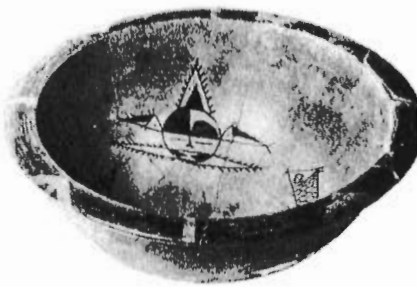
〈符号的の文字〉

炎帝	女帝	太昊	遂皇	始祖人類
神農氏	女媧氏	伏羲氏	燧人氏 (有天下百餘代・一万二千年)	盤古
			有巢氏 (有天下百餘代)	天皇 (有天下 一万八千年)
				地皇 (有天下 一万一千年)
				人皇 (有天下 四万五千六百年)



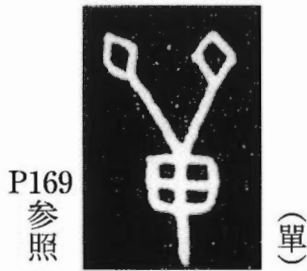
(伏羲)

(6頁へ)



半坡遺跡出土の土器

6000年前の半坡文化 (A) は、仰韶文化 (BC5000年からBC3000年) の一部分とされています。



P169 参照

(單)



〈比較資料〉

(草)

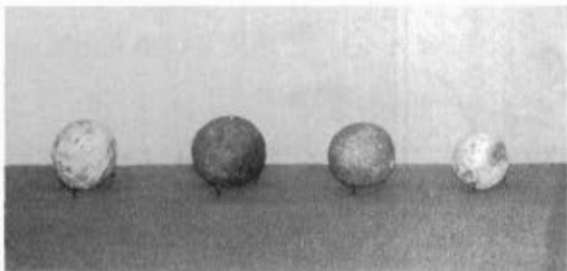
(竹)

(殷の陶器)

(草)

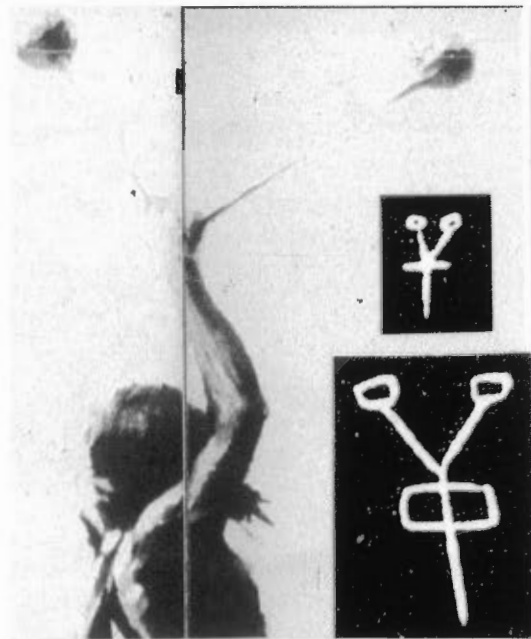


(石球)



球をどのようにして作るようになったのか。又、何に用いたのか？

f



(單)

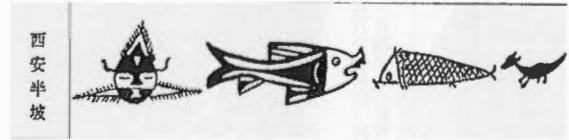
球と円の構図の作成と現実化
※人類の発展にかかすことの出来ない
火の文化とも関係している。



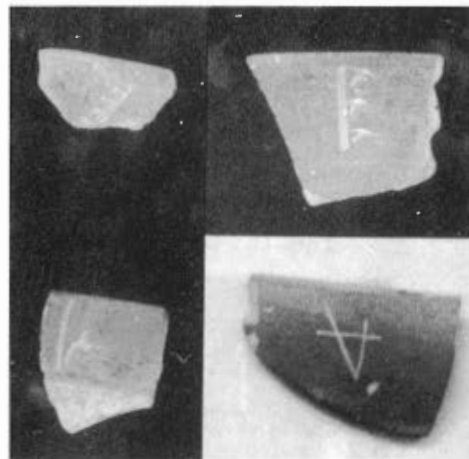
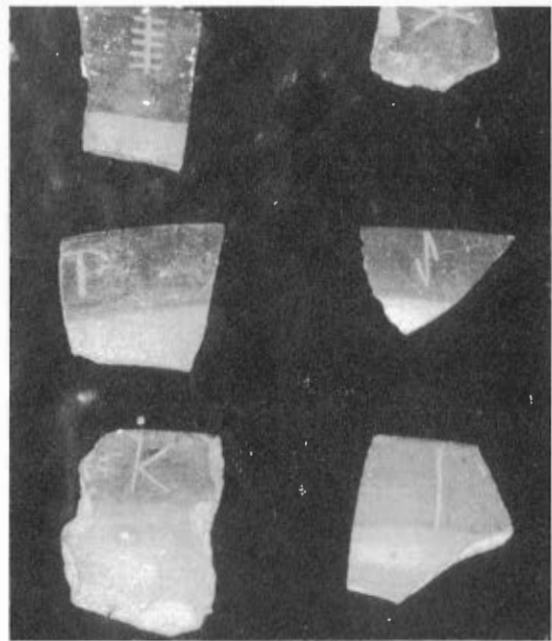
(A) 西安半坡陶器符号



半坡出土陶片符号(大琳臨)



(A) 西安半坡




西安の半坡遺跡出土の陶片
 (甲骨文以前のもものと見られる
 文字のような符号)

七帝
亡于夏
立国
四百九十二年

BC2698

中国

黄 帝 (伝説時代)

2 少 呉 BC2597	1 黄 帝 (五帝の一)	
BC2515 金天氏 (己) 摯 (青陽)	 有熊氏 (姬軒轅) (公孫) 建都 河南新鄭	皇帝

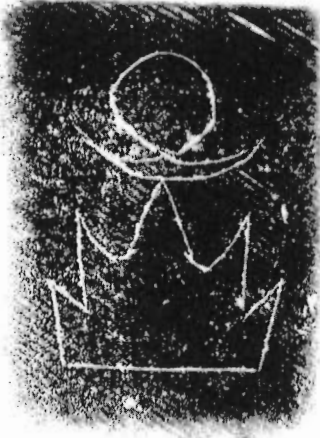
400年～BC2500年大汶口文化

(2 頁から)



★

大汶口の遺跡出土灰陶尊
同・灰陶尊上の記号(拓)
前二五〇〇年頃/ 莒県博物館



(大汶口文化陶器図象)



(B) 大汶口の土器と文字的記号

- ① 旦 (旦) 波 (海から日がのぼる)
- ② 旦 (旦) 山 (山から日がのぼる)
- ③ 日と月と山

〔比較資料〕



殷代の陶器



甲骨文



散氏盤

(木)



黄帝 (伝説時代)



6 (唐) 尧帝

5

4 帝嚳 (佶)

3 玄 帝 (五帝の二)

(五帝の四)

伊放勳
(伊祁)

BC 2358
姫 摯

BC2367

高辛氏姫爰
(五帝の三)

BC2437

高陽氏
(姫顓頊)

③ 甲骨文字の象形文字

⑤ 木

④ 又 (手や右の意味)

甲骨文字

② 居延筆 (内蒙古自治区居延出土) 木を四つに割って筆毛をはさんでいます

① この筆にわが命をかける (大琳)

⑧ 黄金の臣 倉頡

文字の改良に努力した一人

⑦ ルナ幼稚園児が書いた甲骨文字より

筆「筆」

長瀬未来さん

⑥ 殷墟より発見された肉筆文字

(祀)

①は自作の詩「この筆に日本の筆の生産量の80%わが命をかける」です。以上が広島県の熊野で作られたこの筆です。32年、書に命をかけてきました。この筆は主に中国と日本で生産されています。今週の鑑賞 中国は元祖、蘇州をほじめ筆の名産地はたぐさる形」の文字がありまを分県では山香の御堂順暁さん筆づくりが有名です。この漢の「祀」の文字が発見されたのは2000年ほど前です。前の甲骨文字の中に「ふで」が存在していた「筆」は「ふで」の確実な形です。しかし、その「ふで」がどんな形を

⑨ 説文解字より「筆」の篆書

筆 秦謂之筆 从聿从竹

⑩ 筆

大琳書

「ふで」を用いて英知結集

長瀬未来さんの「ふで」の話を聞いた後に書いた作品です。体(からだ)に改良を加えられた「ふで」を持って力(ちから)を注ぎたいと思われたい。漢の説文解字の中に「祀」の篆書(てんしよ)の字形と秦筆の文(ぶん)がある限り、どこかに竹を用いたの(の)でしよう。「秦の蒙恬(もうてん)が将軍(しょうぐん)が筆(ひし)を発明(はつめい)した」とい(い)う伝説(でんせつ)について、恩師(おんし)松井(まつい)如流(にょりゅう)教授(きょうじゆ)は「発明(はつめい)者(しや)ではなく、改良(かいりやう)者(しや)」と

一人(ひとり)と見(み)るべき(べき)で、現在(げんざい)の「ふで」は筆(ひし)の文字(もんじ)から変(へん)わった(った)と思(おも)われ

※祀(祀) まつる…… まつる…… まつり…… 祭祀(さいし)

殷・甲骨文(祀)